

10月30日(木)～11月1日(土)にかけて、1年生理数科を対象に、サイエンスツアーを実施しました。サイエンスツアーは、最先端科学の現状を理解し、科学に対する研究意欲を高めることを目的として「本物に触れ、一流の研究者に学ぶ」というスローガンのもと、毎年この時期に2泊3日の日程で実施しています。研修内容は幅広い分野にわたっており、普段、学校では学ぶことのできない事柄について、研究者の方からお話を聞くことで多くの知識を得ることができました。

1日目 埼玉県和光市にある理化学研究所で研修を行いました。阿部先生からは、再生可能な生物資源を利用したバイオプラスチックの研究について学び、坂井先生からは、宇宙空間に存在する有機分子とその観測に関する講義を受けました。観測技術の進歩により明らかになった宇宙の有機物質の存在について、国際的な共同研究科の意義についても学びました。これらの講義を通して、科学がどのように貢献しているのかを実感し、研究の奥深さと未来への可能性を強く感じるすることができました。



2日目 東京大学駒場キャンパス

東京大学生産技術研究所の七尾高校OBの竹内先生からリモートセンシングに関する講義を受け、その後、工学研究科バイオエンジニアリング専攻の研究内容について紹介を受け、研究室を見学させていただきました。オルガノイド(細胞から作られたミニ臓器)を実際に見せていただくなど、最先端の研究に触れる貴重な体験となりました。

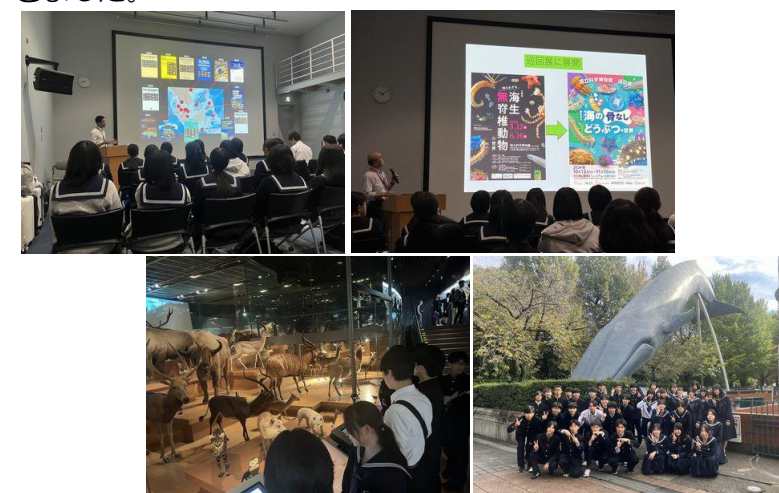


東京大学本郷キャンパス

東京大学素粒子物理国際研究センターの澤田先生から素粒子に関する講義を受けました。難しい内容もありましたが、未知の分野に触れることで科学への関心がさらに高まり、大学での学びへの期待が膨らみました。



3日目 東京都台東区上野公園にある国立科学博物館で研修を行いました。国立科学博物館では、研究者の仕事や標本の意義についての講義を受け、科学の面白さや研究の重要性を学びました。その後の見学では、実際の展示を通して理解を深め、科学への関心がさらに高まりました。その後、新幹線を使って七尾へ帰ってきました。



生徒の感想

- 最先端の研究がどんな場所でどんなことをしているのかを目の前で見ることができて科学に対する興味関心がより深まった
- 世界には今の自分では理解できないが、とても高度な研究が様々な場所、方法でおこなわれていることがわかった。
- 聞いた講義は全部とてもおもしろかったし、どの分野にも魅力を感じた。
- 研究には多くの人の努力と工夫があることを知り、自分ももっと深く学びたいと思いました。



宿舎にて東京の大学へ進学した理数科の先輩と交流しました。(1日目夜)